

科目名	倫理学の世界			ナンバリング	GEN121	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	久呉高之	担当教員					

授業の概要	人間の実践や行為にかかわる哲学の部門を「倫理学」と称するが、とくに「べき」あるいは「道徳」を問題とするのが、狭義における倫理学である。本講義では、20世紀以降に展開された狭義の倫理学の諸説を概観し、問題点を批判的に検討することによって、「道徳」についての皮相なイメージを拭い去り、「べき」「よい」に関する根本的な観方を身につけることに目標をおく。						
到達目標	1 善悪の「根拠」に関する問題点について、自分の言葉で説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	倫理学は哲学の一領域であり、哲学は、「なるべく根本的に考える」ところに成り立つので、予備知識はあまり必要ないが、倫理学的問題に慣れるために、参考書で西洋倫理思想史を概観しておくことが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
		4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① ベンサム、ミルの古典的功利主義とカント形式主義の概略を説明できる。 ② 現代の規範倫理学の流れを「批判的継承」という点で理解している。 ③ 現代のメタ倫理学の流れを「批判的継承」という点で理解している。 ④ カント倫理学の妥当性を「ヘアの倫理学の必然性」という観点から理解している。 ⑤ カントとヘアとを普遍化可能性理論の相違という点で比較できる。	① 古典的功利主義の問題点とカント形式主義の問題点とを関係づけることができる。 ② 現代の規範倫理学のそれぞれの意義と問題点とをヘアの倫理学の中に位置づけることができる。 ③ 現代のメタ倫理学のそれぞれの意義と問題点とをヘアの倫理学の中に位置づけることができる。 ④ カント倫理学の不備がヘアの倫理学によって補完されうることを説明できる。 ⑤ ヘアの普遍化可能性理論の限界をカントの理論との比較によって説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			70%

課題、評価のフィードバック	1 配付プリントに記入された質問に対しては、次回の授業で回答し、解説を加える。 2 最終成績評価が50点台の場合には、希望者のみレポートを課す。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	善悪の根拠への問い(序論)	常識において前提されているにすぎない「善悪」について、その「根拠」を問うことの必要性、重要性について解説する。	
	第2回	規範倫理学(何を為すべきか) 1 カント形式主義と古典的功利主義	近代の二大規範倫理学、カント形式主義と古典的功利主義とについて、その概要と問題点とについて解説する。	
	第3回	規範倫理学(何を為すべきか) 2 デューイの道具主義	プラグマティスト、デューイの道具主義的倫理学の概要と問題点とについて解説する。	
	第4回	規範倫理学(何を為すべきか) 3 ロスの功利主義批判と直覚主義	ロスの功利主義批判と義務論的な直覚主義的倫理学との概要および問題点とについて解説する。	
	第5回	規範倫理学(何を為すべきか) 4 行為功利主義と規則功利主義	スマートらの行為功利主義とアームソンらの規則功利主義との概要および問題点について解説する。	
	第6回	規範倫理学(何を為すべきか) 5 ヘアの選好功利主義	現代倫理学の最先端に位置するヘアの選好功利主義の概要と問題点とについて解説する。	
	第7回	メタ倫理学(「べき」とは何か) 1 ムーアの直覚主義	ムーアの「自然主義的誤謬」論と非快楽主義的な直覚主義的倫理学との概要および問題点について解説する。	
	第8回	メタ倫理学(「べき」とは何か) 2 エアの論理実証主義	エアを代表とする論理実証主義の倫理学(情動主義)の概要と問題点とについて解説する。	
	第9回	メタ倫理学(「べき」とは何か) 3 スティーヴンスンの情動主義	スティーヴンスンの意味論(原因説)とその情動主義との概要および問題点について解説する。	
	第10回	メタ倫理学(「べき」とは何か) 4 ヘアの指令主義	ヘアのメタ倫理的側面である普遍的指令主義の概要と問題点とについて、従来の説との関係をふまえつつ解説する。	
	第11回	道德の可能性 1 ヘアの普遍化可能性理論	ヘアの普遍化可能性理論がカントの理論を乗り越えるものとなっているかどうかについて解説する。	
	第12回	道德の可能性 2 ヘアとカント	カントの理説をふまえたうえで、ヘアとカントの「普遍化可能性理論」の区別および関係について解説する。	
	第13回	道德の可能性 3 ヘアの普遍化可能性理論の問題点	ヘアとカントとを対比することによって、ヘアの普遍化可能性理論の問題点と妥当性の限界とについて解説する。	
	第14回	まとめ 1	第2～8回の授業内容を振り返り、要点と流れについて解説する。	
	第15回	まとめ 2	第9～14回の授業内容を振り返り、要点と流れについて解説する。	
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方		基本的に配付プリントを読み進めながら考えていく。聞き取ったことや疑問点をプリントに書き込む作業を中心とする。		
授業外学習の指示		配付資料と参考書とを中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず参考書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する参考書の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	毎回配付するプリントをテキストとする。
参考書	A.マッキンタイアー『西洋倫理思想史 下』(本学図書館蔵)
参考URLなど	なし
その他	なし